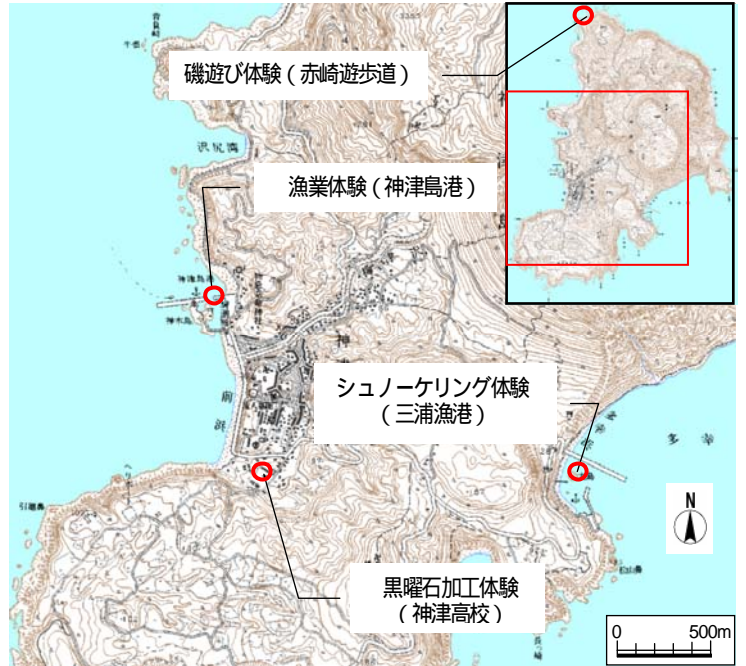
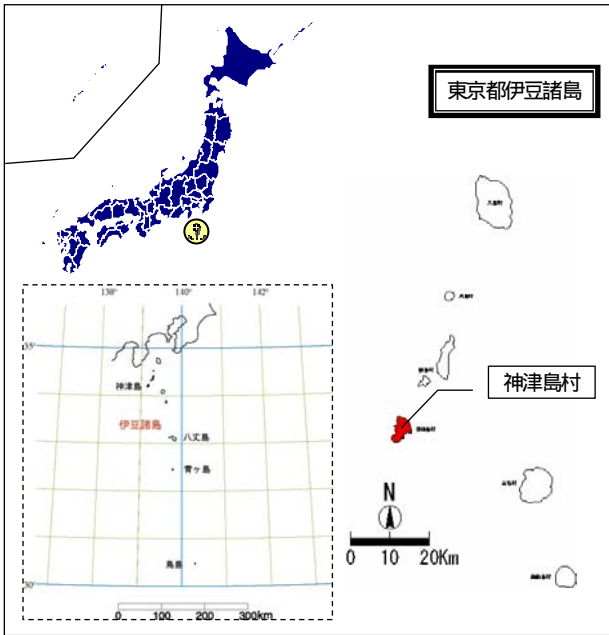


# 離島の特性を活かしたみなとまちづくり(神津島港)

## 地域の現状



【神津島港の全景】

神津島港(地方港湾)  
 港湾管理者:東京都  
 取組実施市町村:東京都神津島村  
 人口:2.2千人(平成16年3月31日 住民基本台帳)  
 観光客数:約3.5万人(平成16年度 東京都調べ)

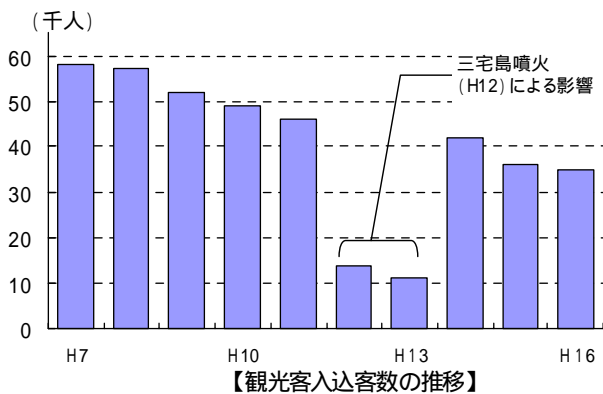
## 島で唯一の、島民の生活を多方面から支えるみなと

神津島は東京の南方海上約170kmにあり、新宿区とほぼ同じ面積の島である。集落は、島の西側神津島港付近に集中している。神津島港は、元禄時代に鰹節を江戸に送るための鰹釣り船の基地として発展し、昭和24年に運輸省から指定港湾に指定された。その後昭和28年3月31日、東京都が管理者となり、現在5,000t級の岸壁が整備されている。神津島港は島で唯一の港湾であり、島民の生活、観光等産業を支える重要な役割を果たしている。

## 地域の課題

かつて伊豆諸島には、美しい自然を求めて約140万人の観光客が訪れるなど、活力に溢れていた。しかし、離島人気の衰退や三宅島噴火の影響等により、現在では観光客数は約50万人程度まで減少し、地域の活力低下が進んでいる。

特に、神津島の観光客数は、昭和50年の約8万5千人をピークに徐々に減り始め、三宅島の噴火による影響のあった平成12、13年を除いても減少傾向にある。さらに、観光客消費額も平成8年の18億4千万円に対し、平成14年には2億1千万円と11%程度に減少している。島の重要な産業である観光業の落ち込みは、島の活力を低下させている。



# 離島の特性を活かしたみなとまちづくり(神津島港)

## みなとまちづくりの目標

### 島の特性を活かしたみなとまちづくり

島の活力再生のためには、各島及び伊豆諸島全体のパートナーシップから生まれる個性的な発想をもとに、都や町村、島民が一体となった取り組みが不可欠である。そこで、都と各町村は、島の玄関口である港湾や空港を、魅力的で賑わいのある空間としていくことを目指し、魅力ある「島のみなとまちづくり」推進協議会を平成15年度に設立した。

今年度の取り組みの中心である神津島村では、昨年度、神津島村魅力ある「島のみなとまちづくり」基本構想を策定した。

観光は、非常に裾野の広い産業群にかかわっており、観光の発展は島の経済の発展に大いに役立つと考えられる。

したがって、神津島村は、神津島港の港湾・漁港・海岸が一体となって、地域住民と行政が連携し、島の特性を十分活かした魅力あふれた空間を創造することにより、観光振興及び地域経済の活性化を図るため「魅力ある「島のみなとまちづくり」」を推進することを目指すものである。

## 活用したみなとの資産

### 赤崎遊歩道

島の北西部に位置し、全長500mの全木造遊歩道。吊り橋や展望台・飛び込み台などもあり、海水浴やシュノーケリングに最適。波の静かなエメラルドの海で一日楽しめる、人気スポット。

### 黒曜石

神津島の岩肌には黒曜石の地層が黒光りしており、前浜海岸沖の恩馳島海底や多幸湾の岩肌に沢山の黒曜石が見られる。石器材料としても使われた黒曜石は、ガラス質の流紋岩に分類される。流紋岩の火山は伊豆諸島では珍しく、新島と神津島のみにみられる。

## 観光とみなとまちづくり

### 取組体制

取り組みにあたっては、平成15年度の「神津島村魅力ある「島のみなとまちづくり」基本構想策定時に設置した、神津島村や東京都、観光協会、漁業関係者等で構成する、『魅力ある「島のみなとまちづくり」神津島協議会』が中心となって進めた。



【赤崎遊歩道】



【黒曜石】

#### 東京都（港湾管理者）

- ・広報PR（港湾局の広報紙への掲載）

#### 神津島村

- ・機材の貸与
- ・打ち合わせ場所の提供
- ・イベント実施の補助

#### 東京港湾事務所（国）

- ・全国事例の提供
- ・広報PR

#### 神津島漁業協同組合

- ・施設の提供
- ・イベント実施に関わる助言

支援・協力

### 魅力ある「島のみなとまちづくり」神津島協議会

#### 【構成】

旅館経営者 / 酒類製造業者 / 商工業者 / ダイビングショップ経営者 / 漁業者 / シルバー人材センター  
神津高校校長 / 商工会 / 船舶運航者  
学識経験者

#### 【内容】

- ・イベントの企画、運営

【取組体制】

## 離島の特性を活かしたみなとまちづくり(神津島港)



【漁業体験】



【磯遊び体験】



【シュノーケリング体験】



【黒曜石加工体験】

### 漁業体験、シュノーケリング・磯遊び体験

#### 取組概要

神津島村のホームページ掲載等の広報により募集した島内外の小学生を対象に、港湾・海岸などを利用した自然体験を行って神津島の良さをアピールし、神津島のサポーターになってもらう。さらに、島内外の小学生同士が活動を通じて交流を深めるために実施した。

実施日：平成16年8月18・19日

場所：漁業体験(神津島港)  
シュノーケリング(三浦漁港)  
磯遊び体験(赤崎遊歩道)

募集方法：村のホームページ等

参加者数：80人(島外小学生39名、島内の小学生41名)

### 海との直接の触れ合いに感動

#### 取組の成果

- 直接海に触れ合えた事が好評であった。
- ただ遊ぶだけでなく、協議会でリーダーシップをとり、目的意識を持たせた事が良かったようである。
- 再度参加したいとの回答が多数あった。
- 取り組みに際しては、安全管理の面からかなりの人数のスタッフが必要であった。継続していくためには、できるだけ少数のスタッフで行えるよう工夫が必要。

#### (アンケート結果)

- 飛び込みが楽しかった。友達ができてよかった。
- シュノーケリング体験で海に潜ったとき、海がきれいで魚がいっぱいいると思った。
- 魚市場や船の中を見ることができて良かった。

### 黒曜石加工体験

#### 取組概要

神津島の特産品である黒曜石の加工体験(地元産の黒曜石を用いて、アクセサリ、矢尻などを作成)が、観光振興策として継続的に実施していけるか、を検討するために実施した。

実施日：平成17年1月14日/21日

場所：神津高校

参加者数：24人(神津高校の生徒を中心に)

サポート：スタッフ5人(村職員、村民)

## 離島の特性を活かしたみなとまちづくり(神津島港)



【海上交通アクセス調査の実施状況】



【(海上交通アクセス調査)海岸線の視察】



【観光資源としての可能性のある奇岩】



【観光資源としての可能性のある洞窟】

### 「黒曜石」の価値の再確認

#### 取組の成果

- 地元の人でも黒曜石の加工体験がある人はほとんど無く、参加者は全員初体験であった。
- 石器時代の神津島について興味をもて、**神津島を誇りに思えるようになった**との事であった。
- 観光品としても評価が高かった。

#### (アンケート結果)

- 何千年も前の石器時代にどのようにして神津島の黒曜石が本土に渡ったのか、**興味がわいてきた。**
- 神津島の黒曜石がはるばる本土に渡って矢尻やナイフとして使用されたことに驚いた。**神津島の誇りになると思う。**
- 自分だけのオリジナルアクセサリーができた。**大切にしたい。**

### 海上交通アクセス調査

#### 取組概要

島々が連携した観光振興に資する海上交通のあり方を検討するため、観光客に実際に神津島の海岸線を海から眺めてもらい、観光資源としての可能性を探った。

実施日：平成17年3月21日

参加者数：11人(観光協会、民宿経営者、観光客、村職員等)

募集方法：当日、来島していた観光客や観光協会職員等に直接呼びかけた。

調査方法：漁船を備船し、神津島港より島の周囲を視察した。

### 魅力ある観光資源の発掘

#### 取組の成果

- 洋上からしか見ることのできない奇岩や洞窟、船でなければ行けない海岸などがあり、**まだまだ魅力ある観光資源があることを実感した。**

#### 今後のみなとまちづくりの取り組みへ

##### 観光資源として活用していくための仕組みづくり

今後、観光資源として活用していくための仕組みづくりを行っていく。

黒曜石体験のリーダーとなれる人が少ないため、後継者の育成が急務である